

戦後 75 年－北海道の戦禍を次世代に

2020.8.19-20

連合北海道では、これまで「平和行動」を中心に、沖縄・広島・長崎などの道外の一環に結集しているが、北海道内でも学び継承していく歴史があり、戦後 75 年を機に、8 月 19 日から 20 日にかけて祈念碑や慰霊碑を巡る「戦後 75 年－北海道戦跡巡りの旅」を実施した。



樺太引揚三船殉難平和の碑（留萌市）

終戦から 75 年を迎え、戦争の記憶が風化していく中、過去の惨禍を二度と繰り返さずに平和を守っていくためには、戦争の記憶を次世代に繋いでいくことが必要であり、連合北海道青年委員会を対象に実施し、今回は終戦直後に起きた「真岡郵便電信局事件」や「樺



三船遭難慰霊之碑（小平町）

太引揚三船殉難事件」等の歴史を学ぶため、留萌管内と宗谷管内の慰霊碑等を見学した。戦跡巡りの旅は、毎年 8 月 20 日に稚内市で開催される「氷雪の門・九人の乙女の碑平和祈年祭」にあわせて実施したが、今年は新型コロナウイルス感染

対策による入場制限があることから、平和祈年祭や世界平和の鐘打式への参加は断念した。また、新型コロナウイルス感染防止の観点から、各地での体験談や学習会は開催せず、移動中の感染対策も含めて少人数での参加とした。

1 日目は、留萌市に設置されている「樺太引揚三船殉難平和の碑」と小平町の「三船遭難慰霊之碑」を見学し、1945 年 8 月 22 日、南樺太から逃れる三隻の船がソ連の潜水艦に攻撃され、1,708 人もの尊い生命が奪われた「樺太引揚三船殉難事件」の



九人の乙女の碑（稚内市）

歴史を学習した。その後、稚内公園に設置された「氷雪の門」と「九人の乙女の碑」を見学し、1945年8月20日、樺太の真岡にソ連軍が上陸し、疎開せずに最後まで交換台に向かった真岡郵便局の女性電話交換手9人が青酸カリを用いて自決した事件を学習した。

2日目は宗谷岬公園に移動し、アメリカ海軍潜水艦「ワフーSS238号」の乗組員80人とワフー号によって日本海で沈められた日本商船5隻の犠牲者696人を慰霊する「平和の碑」、世界81カ国から集められたコインやメダルにより鐘を鑄



祈りの塔（稚内市）

造し、世界平和の鐘の会の国内1号鐘として設置された「世界平和の鐘」、宗谷海域の防備にあたって殉職した人々の鎮魂のために建てられた「宗谷海域海軍戦没者慰霊碑」、日口の緊張が高まる1902年に宗谷岬に建設された「大岬旧海軍望楼」を見学した。また、戦後の1983年、大韓航空のボーイング747がソビエト連邦の領空を侵犯したために、ソ連の迎撃戦闘機のミサイル攻撃によって撃墜され、日本人28人を含む乗客・乗員269人の慰霊と世界の恒久平和を願って建立された「祈りの塔」では、塔の高さは事故発生の日である19.83m、16枚の羽は遭難者の母国数、269枚の白御影石は犠牲者の数を表していた。



猿払電話中継所跡（猿払村）

最後に猿払村の「樺太との電気通信ゆかりの地」を見学し、真岡の女性電話交換手の最後の言葉を繋ぎ、当時は電気通信の拠点として重要な役割を果たしていた猿払電話中継所跡を見学して旅を終えた。

連合がめざす「安心して暮らし、働き、労働運動に携わることのできる社会」の実現には、「社会が平和で安定していること」が大前提であり、今後も平和で安定した社会・暮らしの実現をめざすため、平和運動に積極的に取り組んでいく。